

8. 陸産・淡水産貝類

(1) 調査概要

1) 調査方法

検討委員および調査員による現地調査、日本貝類学会および関連団体から提供された文献等の調査、R L 2004、R D B 2009 およびR L 2014 作成のための補完現地調査、県内各所で行われた公共工事等に伴う環境アセスメント調査、国土交通省河川水辺の国勢調査の結果をもとに、環境省が定めたレッドリスト・レッドデータブックも参考にしながら、熊本県において絶滅が危惧される為に保護が必要と判断された種を独自に選定した。

2) 産地情報の採用基準

産地情報は検討委員および調査員による現地調査、各種の環境アセスメントの調査結果および文献情報も参考にしながら産地情報を記載した。産地としては熊本県市町村区画図に基づき、県北・県央・県南・天草の地域として示した。文献は査読のある日本貝類学会発行の「VENUS」および「ちりぼたん」や、濱田善利著「熊本県産陸産貝類目録」(1970)と湊宏著「日本陸産貝類総目録」(1988)および「日本産キセルガイ科貝類の分布に関する研究」(1994)、近藤高貴著「日本産イシガイ目貝類図譜」(2008)を主に採用した。

3) 調査結果の概要

R D B 2009の出版以降の現地調査および文献等の情報を踏まえて今回の選定を行った。その結果、絶滅危惧 I A類(C R)が12種類、絶滅危惧 I B類(E N)が5種類、絶滅危惧 II類(V U)が7種類、準絶滅危惧(N T)が20種類、情報不足(D D)が18種類の合計62種類を選定した。

絶滅危惧 I A類(C R)のヤマキサゴは他県においては普通種である。しかし、熊本県では県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内にしか生息が確認されておらず、R D B 2009の出版以降、個体数が激減していた。平成28年4月の熊本地震、その後の大雨等による土砂崩れ等で生息域が壊滅的な被害を受け、最も絶滅危惧度が高い種である。個体数の自然回復は容易ではなく、今後の推移を注視していくしかない。イトマキミジンヤマタニシ(熊本県指定希少野生動植物)は熊本県が模式産地であり、これまでのところ天草下島でしか見られない。自然林内落葉下で見出される種であるので、そのような場所の環境変化は絶滅に繋がる。クマモトアツブタムシオイガイはその名の通り、熊本県の特産種である。県北・県央・県南と広く分布している。そのうち、最も古くから知られ、個体数も比較的多い生息地が平成28年4月の熊本地震、その後の大雨等による崩落により壊滅的な状況となった。イシカワギセル、カザアナギセル、ケシヨウギセルの3種はいずれも熊本県が模式産地であり、好洞窟性のキセルガイとして日本で初めて報告された陸産貝類である。県央から県南にかけての石灰岩洞窟内およびその周辺の石灰岩露頭や近く自然林内に見られる。近年、洞窟内やその周辺の環境が自然災害等により変化しつつある。加えて、好洞窟生キセルガイということで採集圧が高まり、イシカワギセルとカザアナギセルは平成28年に熊本県指定希少野生動植物の指定を受け、保護されている。ハナコギセルは県南五木村で多産していたが、川辺川ダム建設計画に基づく区画整備による樹木伐採の煽りを受け、熊本県では生息域が極めて狭まった。

絶滅危惧 I B類(E N)のウスイロオカチグサは、熊本県では熊本市内の遊水池で最初に発見された。その後、遊水池の公園化に伴う護岸工事のために激減した。また、八代市の荒瀬ダム撤去に伴う調査で、球磨川流域にもその生息が確認された。しかし、ダム撤去後の環境変化に対応できず、旧荒瀬ダムに最も隣接した生息地は消滅した。スナガイは海岸の海浜植物の間や海岸近く

の畑草地に生息する種である。最近の海岸線沿いの宅地化に伴い、生息地が狭められている。淡水産貝類のニセマツカサガイ、キュウシュウササノハガイ、カタハガイは県北の菊池川水系に見られるイシガイ類である。特に、キュウシュウササノハガイとカタハガイの生息域は限定されているようであり、絶滅危惧ⅠB類(EN)に新たに加えた。

絶滅危惧Ⅱ類(VU)に今回ランクされたチクヤケマイマイの生息地は県央の比較的狭い場所に限られているので、R L2014の準絶滅危惧(NT)からランクを上げた。生息地の自然環境変化は本種の絶滅に直結するおそれがあるので、今後注視していく必要がある。なお、近年本種よりもやや大型のツシマケマイマイ(環境省R L2018:NT)(移入種)が熊本市内で発見され、その後の調査で定着が確認された。降雨時に活発に動き回るキセルガイモドキやホソキセルガイモドキは自然林内で見られる種である。両種とも、単独で発見されることが多く、森林伐採は絶滅につながりやすい。淡水産貝類のヒメマルマメタニシは農薬の影響を受けやすいようで、熊本県では無農薬や減農薬耕作が行われている地域でしか見られなくなった。県央緑川水系で見られていたマツカサガイは、R L2014では絶滅危惧ⅠB類(EN)にランクされていた。近年、県北菊池川水系の複数ヶ所で発見されたことから、絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクを落とした。しかし、県内では生息地および個体数ともに減少の傾向にある。

準絶滅危惧(NT)に挙げられたサツمامシオイガイは県内全域で、タカチホムシオイガイは県央・県南の数ヶ所にそれぞれ生息情報が得られたことから、R L2014の情報不足(DD)から準絶滅危惧(NT)にランクインした。両種とも、もともと希少である。なお、R L2014で情報不足(DD)に挙げられたシバムシオイガイはハリمامシオイガイとの区別が定かではなく、今回は除いた。また、県南にはフトクビムシオイガイ(仮称)の生息も知られている。ムシオイガイ類の属名 *Chamaelycaeus* Kobelt & Möllendorff, 1897につき、Páll-Gergely と Asami (2017) は *Metalycæus* Pilsbry, 1900のsynonymとしているが、ここでは環境省R L2018に従った。シリブトゴマガイはR L2014以降、さらに生息地が増えた。しかし、希少であることに変わりはなく、準絶滅危惧(NT)に留めた。R L2014で絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクされていたミジンマイマイは、その後、産地が知られるようになった。また、個体数も多いので、ランクを1つ落とした。県内全域に分布するピルスブリギセルとアメイロギセルは発見されるときに個体数が多くなく、準絶滅危惧(NT)に留めた。また、ヘソカドガイは天草の海岸線に、シマケルギセルとオキモドキギセルは県南山岳地帯に、カタギセルとトサギセルは県北・県南の山岳地帯に限定され、個体数も少ないことから、準絶滅危惧(NT)に留めた。ナガオカモノアラガイは県北菊池川水系と県央加勢川・緑川水系に比較的多く見られるが、生息地が限定されていることから、準絶滅危惧(NT)に留めた。平野部から山間部林内で見られるコベソマイマイは、県内普通種のツクシマイマイと同様に、県内全域に生息している。しかし、近年、ツクシマイマイと違って減少傾向にあり、やはり準絶滅危惧(NT)に留めることが妥当と判断した。本種は県内で広く見られることから、環境評価の指標動物となり得る。テラマチベッコウとタカハシベッコウはもともと希少である。殻は薄く、生体の構造上、外套膜の一部が殻からはみ出しており、乾燥に弱い。よって、自然林内の乾燥化は絶滅につながるおそれがあるので、準絶滅危惧(NT)に残した。淡水産貝類のミズゴマツボとヒラマキミズマイマイはヒメマルマメタニシ同様、農薬の影響を受けやすいようで、準絶滅危惧(NT)に留めた。R L2014で準絶滅危惧(NT)に挙げられたレンズガイは、その後の調査で熊本県には広く見られ、個体数も比較的多いことがわかった。よって、本種はランク外とした。

情報不足(DD)で挙げられた種は基本的に希少で、生息地情報に乏しい種である。今回、新たにタネガシمامシオイガイとノミガイを挙げた。タネガシمامシオイガイはクマモトアツブタム

シオイガイと同様に小型のムシオイガイ類である。主に、種子島・屋久島から九州西海岸にかけて生息しているようであるが、その詳細は現時点では不明である。ノミガイは本州南岸から九州、薩摩・琉球諸島に広く分布する種であり、熊本県では天草市牛深町の桑島（無人島）から発見された。最近、天草市の海岸樹林内でも発見されたが、桑島の環境が激変するとは考えられず、一応、情報不足(DD)に挙げた。また、アラハダノミギセルとシンチュウギセルの新たな産地も最近報告されてきた。しかし、それらの生息状況の情報は皆無であり、絶滅危惧度を判定するには至っていない。県北・県南で見ついているオオウエキビ、カサネシタラガイ、カドヒメベッコウ、オオクラヒメベッコウは極めて希少であり、生息状況のさらなる情報が必要である。また、R L2014の情報不足(DD)に挙げたアラナミギセル、ナミハダギセル、ジタロウマイマイは現在の生息環境が激変するとは思われず、また、環境省R L2017でもランク外であることから削除した。淡水産貝類のオオタニシとヒメヒラマキミズマイマイは近年減少している種であるが、絶滅危惧度を判定するにはさらなる情報が必要である。

その他に環境省R L2018では、次の陸・淡水産貝類がリストアップされている。熊本県ではこれまでの調査で、これらの種は比較的個体数も多く県内の広範囲で見られるので、現段階で絶滅が危惧されるとまでは言えない。ただし、マシジミについてはタイワンシジミとの区別が外見上難しいので、判断できない。

《環境省R L2018に掲げられている種》

クチマガリスナガイ(VU)、マルタニシ(VU)、マシジミ(VU)、クルマヒラマキガイ(VU)、レンズガイ(VU)、マメタニシ(VU)、タケノコカワニナ(VU)、ヤマトシジミ(NT)、ゴマオカタニシ(NT)、モノアラガイ(NT)、ウメムラシタラガイ(NT)、ヒメカサキビ(NT)

4) R L2014 との比較

R L2014と比較して、絶滅危惧 I A類(CR)に掲げた種に変更はない。絶滅危惧 I B類(EN)では淡水産イシガイ類のニセマツカサガイ、キュウシュウササノハガイ、カタハガイを入れ、マツカサガイは絶滅危惧 II類(VU)にランクを落とした。絶滅危惧 II類(VU)には新たにチクヤケマイマイを準絶滅危惧(NT)からランクアップした。また、ミジンマイマイは準絶滅危惧(NT)にランクを落とした。準絶滅危惧(NT)ではサツمامシオイガイとタカチホムシオイガイを情報不足(DD)からランクインした。情報不足(DD)には新たにタネガシمامシオイガイとノミガイを加え、アラナミギセル、ナミハダギセル、ジタロウマイマイをランク外とした。

5) 今後の課題

今回のRDB2019で選定した種数は62種であり、調査結果を踏まえて前回のR L2014に掲げた種数63種より1種少なくなった。しかし、熊本県全体で考えると46%がRDB2019に選定されている。今後、生存への脅威が増せば、絶滅危惧度は上がるであろう。絶滅危惧度の最も高い種は基本的に熊本県が模式産地であるか、または熊本県の特定の地域にしか見られない種である。特に、他県では普通種であるヤマキサゴは熊本県では極めて狭い範囲にしか見られず、現在、最も絶滅に瀕している。絶滅危惧 I A類(CR)に掲げられたヤマキサゴを含めた12種は、今後の環境変化に対応できるかどうか注視していく必要がある。ただし、選定されていない種の中には、県内において発見される頻度や個体数が少ない種も含まれている。しかし、他県にその生息が十分に知られ、かつ熊本県における生息地が散在している種であれば、県内全ての生息環境が激変しない限り絶滅のおそれはない。また、他県に生息の主体を置く県境付近の種も同様である。

一方、最近懸念されているのが外来種や移入種の侵入である。例えば、2005年に県央への侵入が確認されたソメワケダワラガイは県北へと勢力を拡大している。2007年に県北で確認されたオオクビキレガイは野菜への食害が報告されている。本種は県央熊本市へも生息地を拡大し、熊本市では駆除に至った。食害という観点からは温室で見かけるコハクガイも、観葉植物を食い荒らす。1984年に熊本市内の民家ブロック塀から多数発見されたナミギセルはオオクビキレガイの生息場所と似ており、移入された可能性が高い。その後の調査で、その分布が国道3号線沿いに県北・県南へと拡大している。淡水産貝類のスクミリンゴガイは熊本県全体に広がり、稲等を食害した。また、ヒメマルマメタニシやミズゴマツボと競合するようである。さらに、県北・県央の温泉地から流れ出す水路にはヌノメカワニナが定着している。これら人間生活を脅かすおそれのある外来種や移入種は、在来種の生息に直接影響があるかどうかは明確には判断できないが、絶滅が危惧される種と同様に今後の推移を注視していく必要がある。

今回掲げた陸・淡水産貝類は絶滅のおそれがある一方で、環境に順応してしたたかに密かに生存している種も多い。しかし、環境調査や研究と称して生息環境を踏み荒らし、普通種も含めて数百個体の単位で陸・淡水産貝類を採集してしまえば、移動能に優れない陸・淡水産貝類はその場所から完全に姿を消す。このような行為は地球上の生命体の一員である人類にとって慎むべき行為であり、このようなことが絶滅危惧度を一層押し上げることにつながる。

(2) 種の解説

陸産貝類の大半は炭酸カルシウムを主成分とする殻を持っていることから、カルシウムイオンの豊富な石灰岩地帯で種類数も個体数も多い。また、乾燥や外敵から身を守るために軟体を殻の中に閉じ込めるとはいえ、乾燥は大敵である。したがって、生息場所はその種の生存の重要な要素である。種の解説の生息状況には、主にその種の殻が発見されるおおよその場所が記載されており、生貝であるかまたは死貝であるかの区別はしていない。例えば、生息状況に「落葉下」と書いてあるのはよく発見される場所を指しており、定常的に湿気がある「落葉下」を意味している。キセルガイなどの大型の種も、よく「落葉下」や「朽木」の中から発見される。しかし、活動しているわけではなく、むしろ乾燥を避けるために落葉下などで休眠していることが多い。樹上性のキセルガイでも極端に乾燥している時や冬季には樹皮の裏や樹幹根元の落葉下に身を潜めて休眠している。調査者がどの時期の、どの様な天候のもとで陸産貝類を採集したかによって、記載されている生息状況は異なる。例えば、大雨の中で調査をすれば、ほとんどの陸産貝類は樹幹上や朽木上、落葉上を這っている。殻径5mm程度のマルシタラガイは梅雨から初夏にかけて、2mを超えるアオキの先端枝先まで這い上がっている。しかし、乾燥期には落葉下に潜む。雪の積もった真冬に調査を行なえば、アメイロギセルやカタギセルなどの大型のキセルガイは殻口にタンパク質の膜を張り、落葉下の腐葉土中に潜り込んで休眠している。しかし、微小な種は雪下の落葉中でも活発に動き回っている。

絶滅危惧 I A類 (CR)

ヤマキサゴ

Waldemaria japonica (A. Adams, 1861)

ヤマキサゴ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少、その他（もともと希少）

生息環境 湿気のある自然林内でアオキなどの低木があり、落葉豊富で朽木等もある林内

生息状況 本州・四国に広く分布する普通種である。県内では唯一、県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内に生息している。個体数は極めて少ない。平成 28 年 4 月の熊本地震、その後の大雨等による土砂崩れで、これまでの生息域が壊滅的な被害を受けた。模式産地は山形県酒田市飛鳥。

生存への脅威 捕獲・採集、自然災害、火山活動、土砂流入

特記事項 殻径 11mm 程度で、殻は赤褐色の殻皮をまとい、厚くて堅固。老成体では殻皮が落ちて石灰質となる。



撮影：西野宏

イトマキミジンヤマトニシ

Cyathopoma nishinoi Minato, 1980

ヤマトニシ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 県特産、全国局限、県内局限、模式産地、その他（もともと希少）

生息環境 落葉堆積があって湿気のある自然林内

生息状況 天草市の自然林内で発見された希少種。天草下島の数ヶ所から生息の記録がある。分布は今の所、天草下島に限られている。模式産地は熊本県天草市。

生存への脅威 森林伐採、ダム工事、観光開発、捕獲・採集、踏み付け、自然災害

特記事項 多様性条例（指定希少野生動物）。日本に生息するミジンヤマトニシ類はミジンヤマトニシと本種のみ。台湾に生息するタイワンミジンヤマトニシのように殻表面に 5~6 条の螺旋脈がある。殻径 2mm 程度の微小種。



撮影：西野宏

クマモトアツブタムシオイガイ

Awalycaeus shiosakimasahiro Yano, Matsuda & Nishi, 2016

ムシオイガイ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー

選定理由 県特産、全国局限、県内局限、模式産地、その他（もともと希少）

生息環境 落葉のある自然林内や石灰岩地帯の落葉下

生息状況 県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内や玉東町木葉山、県央下益城郡美里町、県南八代市泉町の石灰岩落葉下から生息の記録がある。個体数は少ない。県北阿蘇外輪山にある原生林内は平成 28 年 4 月の熊本地震、その後の大雨等による土砂崩れで、壊滅的な被害を受けた。模式産地は熊本県玉名郡玉東町。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、ダム工事、岩石採掘、捕獲・採集、踏み付け、自然災害、火山活動、土砂流入

特記事項 1972 年に初めて発見され、2012 年にタダアツブタムシオイガイと一旦同定された。しかし、その後の研究で新種として改めて認定された。殻高 1.5 mm、殻径 3.1 mm 程度。

イシカワギセル

Megalophaedusa (Neophaedusa) ishikawai (Kuroda & Minato, 1975)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 県特産、全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 石灰岩洞窟内およびその周辺のカレ場、石灰岩露頭の落葉下や近くの自然林内

生息状況 県央南部下益城郡美里町の鍾乳洞を中心に、八代市、宇城市、甲佐町、御船町近隣の鍾乳洞内およびその周辺や近くの石灰岩路頭近くの自然林内に生息。鍾乳洞内およびその周辺の個体数は捕獲・採集によって激減した。鍾乳洞内では泥に含まれる有機物を食べる。模式産地は熊本県下益城郡美里町。

生存への脅威 森林伐採、道路工事、ダム工事、観光開発、河川改修、埋め立て、洞窟内環境変化、捕獲・採集、交雑、自然災害、土砂流入

特記事項 多様性条例（指定希少野生動植物）。殻高 10mm 程度の好洞窟性キセルガイ。石灰岩露頭の落葉下や近くの自然林内でも発見されることから、洞窟性への適応過程にある種と考えられる。



撮影：西野宏

カザアナギセル

Megalophaedusa (Neophaedusa) spelaeonis (Kuroda & Minato, 1975)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 県特産、全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 石灰岩洞窟内

生息状況 県南八代市を中心に球磨川およびその支流沿いの芦北町、球磨村、山江村、八代海（不知火海）を挟んで上天草市に位置する石灰洞内に生息。個体数は極めて少ない。近年、捕獲・採集および鍾乳洞内の環境変化により激減した。模式産地は熊本県八代市。

生存への脅威 道路工事、ダム工事、観光開発、河川改修、埋め立て、洞窟内環境変化、捕獲・採集、自然災害、土砂流入

特記事項 多様性条例（指定希少野生動植物）。石灰洞内に生息する殻高 10mm 程度の好洞窟性キセルガイ。イシカワギセルと違って洞窟の外からは発見されていないことから、洞窟内に適応した真洞窟性キセルガイと考えられる。



撮影：西野宏

ケショウギセル

Megalophaedusa (Neophaedusa) albela (Minato, 1976)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー

絶滅危惧 I A 類 (CR)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

生息環境 石灰岩洞窟周辺のカレ場、石灰岩露頭やその近隣の自然林内の落葉下

生息状況 県南八代市、山江村、五木村、相良村から宮崎県東臼杵郡椎葉村に広がる石灰岩地帯落葉下に生息。また、宮崎県東臼杵郡椎葉村では石灰洞内およびその周辺にも生息している。個体数は少ない。模式産地は熊本県八代市泉村

生存への脅威 森林伐採、道路工事、河川改修、捕獲・採集、自然災害、火山活動、土砂流入

特記事項 殻高 13mm 程度の好洞窟性キセルガイ。カザアナギセルやイシカワギセルよりも、好洞窟性は進んでいないと考えられる。



撮影：西野宏

ナンピギセル

Megalophaedusa (Pauciphaedusa) toshiyukii (Minato & Habe, 1983)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、その他（もともと希少）

生息環境 落葉堆積があつて湿気のある自然林内の朽木内や落葉下

生息状況 県南八代市や球磨村、五木村、あさぎり町の山岳地帯自然林内の朽木の中や湿気のある落葉下などに生息。山間部の石灰岩地帯落葉下でもよく発見される。発見される個体数は極めて少ない。模式産地は鹿児島県始良郡湧水町（旧栗野町）栗野岳。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、捕獲・採集、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 9mm 程の小型のキセルガイ。八代市や五木村で最初に発見されたので、「南部肥後」にちなんで「ナンピ」ギセルと名付けられた。



撮影：西野宏

ヒゴコンボウギセル

Stereophaedusa higomonticola (Minato & Tada, 1979)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、その他（もともと希少）

生息環境 ブナの生い茂る山岳地帯の自然林内、山間部石灰岩地帯の落葉下

生息状況 県南八代市から五木村にかけての山岳地帯ブナ自然林内や石灰岩ガレ場などの落葉下で見られる。また、宮崎県東臼杵郡椎葉村の山間部石灰岩地帯の落葉下などにも生息。個体数は少ない。模式産地は熊本県八代市泉村縦木。

生存への脅威 森林伐採、道路工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入

特記事項 殻高 22mm 程度の中型キセルガイ（螺層 13~15 層）。大分県南部から宮崎県北部の石灰岩地帯にかけて生息する大型の螺層 18~21 層のタケノコギセルに似ている。



撮影：西野宏

ハナコギセル

Reinia euholostoma (Pilsbry, 1901)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 イチイガシ、アラカシ、ムクノキ、ヤブツバキなどの老樹幹上

生息状況 県南五木村にあったイチイガシ樹幹上に群生していたが、川辺川ダム建設計画に伴う樹木伐採により、生息地の一つが消失した。五木村や相良村の里地・里山環境にある特定の樹幹上で見られる。日本では伊豆半島、高知県南部や九州中央部の山間部里地に局所的に点在分布する襲速紀要素型分布を示す。模式産地は静岡県御殿場市。

生存への脅威 森林伐採、土地造成、道路工事、ダム工事、観光開発、河川改修、埋め立て、自然災害

特記事項 殻高 8mm 程度の小型キセルガイで、殻は膨れた紡錘形をしている。



撮影：西野宏

マルクチコギセル

Reinia holotrema (Pilsbry, 1902)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少、その他 (もともと希少)

生息環境 ブナなどの苔むした高木落葉広葉樹の樹幹上

生息状況 1973年に県南八代市山間部のブナ樹幹上から県内で初めて発見された。その後、県南五木村では苔むしたイロハモミジの樹幹上で見出された。いずれも個体数は一般的には極めて少ない。日本では紀伊半島南部の山岳地帯と九州中央部の山岳地帯にしか分布していない襲速紀要素型分布を示す。模式産地は和歌山県東牟婁郡那智。

生存への脅威 森林伐採、道路工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入

特記事項 殻高13mm程度、螺層の上部は淡黄白色、下部は褐色に染め分けられたキセルガイ。



撮影：西野宏

オオウスピロウドマイマイ

Nipponochloritis fragosa Minato, 1983

ナンバンマイマイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 県特産、全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少、その他 (もともと希少)

生息環境 湿気のある自然林内落葉下や朽木上、石灰岩露頭の落葉下

生息状況 県央山都町石灰洞内の朽木上で発見された個体が模式標本となった。県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、益城町、山都町、県南八代市、五木村、水上村、球磨村、水俣市の自然林内にある朽木周辺や落葉下、石灰岩ガレ場の落葉下などに生息。個体数は極めて少ない。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高12mm、殻径22mm程度のマイマイ類。殻は薄く、殻口は反転肥厚しない。殻表面には短い毛(殻毛)が密生している。



撮影：西野宏

オオスミピロウドマイマイ

Nipponochloritis osumiensis (Pilsbry & Hirase, 1904)

ナンバンマイマイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠA類 (CR)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、地域的孤立・希少、その他 (もともと希少)

生息環境 湿気のある自然林内、自然林内にある朽木上、石灰岩露頭の落葉下

生息状況 1971年に県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山原生林内にある朽木上や山都町の自然林内で発見されて以来、県南八代市、五木村の石灰岩露頭の落葉下や人吉市広葉樹林内で見られる。個体数は極めて少ない。模式産地は鹿児島県大隅で、九州南部の山間部自然林内に生息。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、観光開発、河川改修、埋め立て、捕獲・採集、自然災害

特記事項 殻高6mm、殻径11mm程度のマイマイ類。殻は赤褐色で薄く、殻口は反転肥大しない。殻表面には短い毛(殻毛)が生えており、オオウスピロウドマイマイのそれよりも長い。生貝ではふさふさした柔らかい、まさにピロード様の殻である。



撮影：西野宏

絶滅危惧 I B類 (EN)

ウスイロオカチグサ

Paludinella debilis (Gould, 1859)

カワザンショウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 河川や湖の石垣上、石垣のすき間、水しぶきのかかる水際泥質地

生息状況 熊本市遊水池の上江津湖にある石垣上で最初に発見。その後、県央熊本市、宇城市、県南八代市および津奈木町でそれぞれ確認。八代市球磨川に敷設されていた荒瀬ダムが平成30年3月までに完全撤去され、この近くの本流域に生息していた本種は絶滅した。しかし、その近くの支流水際泥質地に生息が確認されている。模式産地は琉球。近年、本種の生息は関東地方まで北上している。



撮影：西野宏

生存への脅威 道路工事、ダム工事、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、水質汚濁、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、湿地の乾燥化

特記事項 殻高 5 mm 程度。短いやや尖った触覚の先端付近に眼があり、蓋を持つカタツムリのなかま。湿気があれば、泥および砂地上を活発に動き回る。また、水中泥地上も同様に活発に動き回れる。

スナガイ

Gastrocopta (Sinalbinula) armigerella armigerella
(Reinhardt, 1877)

スナガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 砂地海岸線草むら、海岸線雑木林落葉下、海岸線海浜性植物落葉下

生息状況 玉名市、宇土市、天草市の海岸線の草むらや雑木林落葉下に生息。海岸線の畑あぜ道の草むらにミジンマイマイと共に見られることがある。宇土市住吉では畑が宅地化され、かつての生息場所は消滅した。模式産地は神奈川県三浦市。なお、県南八代市や五木村の自然林内落葉下には本種に似たチョウセンスナガイが生息している。



撮影：西野宏

生存への脅威 土地造成、道路工事、農地開発、海辺の改変等、埋め立て、農薬使用、捕獲・採集、踏み付け、除草、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 2mm 程の微小な貝で、殻は白色。殻口内に多数の歯がある。

ニセマツカサガイ

Inversiunio yanagawensis (Kondo, 1982)

イシガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、その他（もともと希少）

生息環境 流れの速い小川や用水路の砂礫から砂泥底

生息状況 県北玉名市菊池川水系。個体数は多いところもあるが、分布は局所的である。模式産地は福岡県柳川市。

生存への脅威 道路工事、ダム工事、農地開発、河川改修、埋め立て、農薬使用、水質汚濁、捕獲・採集、自然災害、土砂流入



撮影：西野宏

特記事項 淡水産二枚貝。殻長 70 mm 以内。グロキディウム幼生はオイカワ、カマツカ、ヨシノボリに寄生する。また、タナゴ類の産卵母貝として利用される。

キュウシュウササノハガイ

Lanceolaria kihirai Kondo & Hattori, 2019

イシガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少、その他（もともと希少）

生息環境 小川や用水路の砂礫から砂泥底

生息状況 県北玉名市菊池川水系の限られた場所に生息。個体数は少ない。模式産地は福岡県柳川市二ツ川。

生存への脅威 道路工事、ダム工事、農地開発、河川改修、埋め立て、農薬使用、水質汚濁、捕獲・採集、自然災害、土砂流入

特記事項 淡水産二枚貝。殻は極端に細長く、殻長 150 mm 以内。グロキディウム幼生はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリ、アシシロハゼ、ウキゴリ、ヌマチチブに寄生する。本種はこれまでトンガリササノハガイ *Lanceolaria grayii* とされていたが、分子系統解析の結果、本州と四国に分布するササノハガイ *L. oxyrhyncha* と九州に分布するキュウシュウササノハガイ *L. kihirai*（新種・新称）に新たに分類された。



撮影：西野宏

カタハガイ

Obovalis omiensis (Heimburg, 1884)

イシガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少、その他（もともと希少）

生息環境 小川や用水路の砂礫から砂泥底

生息状況 県北玉名市菊池川水系や県央上益城郡嘉島町緑川水系の限られた場所に生息。個体数は極めて少ない。模式産地は滋賀県塩津。

生存への脅威 道路工事、ダム工事、農地開発、河川改修、埋め立て、農薬使用、水質汚濁、捕獲・採集、自然災害、土砂流入

特記事項 淡水産二枚貝。殻長 80 mm 以内。グロキディウム幼生はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリに寄生する。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

キセルガイモドキ

Mirus reinianus (Kobelt, 1875)

キセルガイモドキ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 自然林内の落葉下や朽木上、苔むした高木樹幹上

生息状況 県北山鹿市、菊池市や阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山原生林内、玉名市、玉東町や県央宇土市、甲佐町、御船町、山都町など。県南八代市、芦北町、球磨村、山江村、五木村、水上村などの自然林内の朽木上や落葉下、苔むした高木樹幹上に見られる。群生することはあまりなく、個体数は少ない。近年、個体数の減少が見られる。なお、玉東町木葉山では石灰岩露頭落葉下などに、殻の色が淡黄色でやや薄い殻をもつ本種が発見されることがある。模式産地は日本。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 キセル貝類は左巻きだが、キセルガイモドキ類は右巻き。キセルガイ類には殻口奥にキセルガイ特有の腔壁や閉弁があるが、キセルガイモドキ類にはそれがない。殻全体はずんぐりと膨れている。殻高 25mm 程度。

ホソキセルガイモドキ

Mirus rugulosus (Moellendorff, 1900)

キセルガイモドキ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内の落葉下や朽木上、苔むした高木樹幹上

生息状況 県南八代市、球磨村、五木村などの自然林内に見られる。また、これらの地域の石灰岩露頭落葉下でも見出される。キセルガイモドキと同じ場所に棲む。個体数は少なく、単独で見られることが多い。近年、発見される頻度が減った。模式産地は壱岐島。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 右巻きで、殻高 18mm 程度。キセルガイモドキに比べて細くて小さい。

カワモトギセル

Megalophaedusa (Tyrannophaedusoides) kawamotoi (Kuroda & Taki, 1944)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 山岳地帯の落葉下や倒木、石灰岩地帯自然林内の朽木上や落葉下

生息状況 県南八代市雁俣山、大金峰山、京丈山の地質的に石灰岩ベルト地帯上にある自然林内で最初に発見された。また、県南山岳地帯にある国見岳の落葉下や朽木上にも見出される。個体数は極めて少ない。模式産地は山口県岩国市城山で、石灰岩カルストで有名な山口県秋吉台にも分布している。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入

特記事項 左巻きで、殻高 22mm 程度。ピルスブリギセルに見られるように、殻口奥にあるミカドギセル属特有の月状襞が逆「J」字形を成している。下軸版は殻口に出ている。

チクヤケマイマイ

Aegista (Plectotropis) aemula aemula (Gude, 1900)

オナジマイマイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 石灰岩ベルト地帯上または近隣の雑木林落葉下

生息状況 県央御船町や甲佐町の石灰岩露頭近くの雑木林に見られ、個体数は少ない。これらの地域以外ではこれまでに発見されていない。また、本種に似ているがやや大型のツシマケマイマイ (殻径 18 mm 程度) が 2015 年 5 月に熊本市内で一時期発生した。その後、狭い範囲だけが定着していることが確認された。模式産地は島根県松江市竹谷町。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 6.5 mm、殻径 14.4 mm 程度のベッコウマイマイ。殻表は鱗片で覆われ、殻の周縁は鋭く、全体的に凸レンズ状。

ヒメマルマメタニシ

Gabbia kiusiuensis (S. Hirase, 1927)

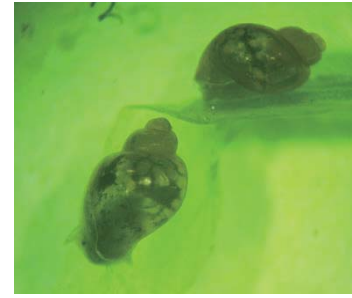
エゾマメタニシ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 近年減少

生息環境 水田脇の水路泥底

生息状況 水田や自然河岸の泥質水路に見られる。無農薬や減農薬耕作が行われている県央宇城市小川町と熊本市河内町の2ヶ所から発見されている。しかし、その後の再度調査では確認できていない。1975年頃までは県央熊本市西部のほとんどの水田で多く見られた。1980年以降に県内に広まったスクミリンゴガイと競合することによって、さらに減少した。



撮影：西野宏

生存への脅威 道路工事、農地開発、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、農薬使用、外来種の侵入、土砂流入、湿地の乾燥化

特記事項 殻高6mm、殻径4mm程度の小型の淡水貝。殻は褐色～赤褐色、薄質で、生きた個体では肝臓が透けて見え、殻頂部が黒っぽく見える。マルタニシを小型にしたような形態で、蓋の形状もマルタニシに似る。

ホラアナミジンナ

Moria nipponica (Mori, 1937)

ヌマツボ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 山間湧水流の水底に溜まった落葉上や石の表裏および石灰洞内を流れる地下水中の石の表裏や落葉上

生息状況 県北菊池市、県央益城町、御船町、甲佐町、県南五木村の限られた湧水中に見られる。その場所における個体数は比較的多い。高知市竜河洞（模式産地）で発見されたので、「ホラアナ」を冠している。



撮影：西野宏

生存への脅威 道路工事、ダム工事、河川改修、埋め立て、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高1.2mm程度の微小な淡水貝。殻は卵円形・薄質で、半透明淡黄白色。以前、熊本県では本種を「アキヨシホラアナミジンナ」と称していたが、その後ホラアナミジンに統一された。

マツカサガイ

Pronodularia japonensis (Lea, 1859)

イシガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 澄んだやや流れのある小石混じりの砂地川底

生息状況 県北玉名市菊池川水系、県央熊本市、益城町、宇土市で生息が確認されている。いずれもイシガイと共に生息している。個体数はイシガイに比べて少ない。1965年頃までは県央宇城市、近年では山都町や宇土市長浜で採集記録がある。しかし、その後は再確認されていない。用水路のコンクリート化による土砂堆積の減少などの生息環境変化により、絶滅の危惧度が高い。模式産地は日本。



撮影：西野宏

生存への脅威 道路工事、農地開発、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、農薬使用、土砂流入、湿地の乾燥化

特記事項 殻長60mm程度の淡水産中型二枚貝で、やや厚みがある。イシガイに似るが殻表に強い波状（分岐状）の装飾がある。産地によっては殻頂部が浸食される。グロキディウム幼生はオイカワ、カワムツ、ヨシノボリ、ドジョウに寄生する。

準絶滅危惧 (NT)

サツمامシオイガイ

Chamalycaeus satsumanus satsumanus (Pilsbry, 1902)

ムシオイガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内やガレ場の落葉下

生息状況 県北菊池市、阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、西原村、県央宇城市、美里町、県南八代市、球磨村、五木村、天草下島など、県内の自然林内等で広く見られる。しかし、個体数は少ない。模式産地は鹿児島県。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、ダム工事、農地開発、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 2.5 mm、殻径 3.9 mm 程度のムシオイガイ。殻口は二重唇を形成し、螺旋脈が明瞭である。なお、熊本県にはサツمامシオイガイよりも螺旋が低く二重唇であるハリマムシオイガイが広く分布している。



撮影：西野宏

タカチホムシオイガイ

Chamalycaeus nishii Minato, 2005

ムシオイガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内や石灰岩ガレ場の落葉下

生息状況 本種は大分県南部から宮崎県北部、また、県央宇城市、美里町、県南八代市、五木村にかけての石灰岩ガレ場や自然林内から見出される。個体数は少ない。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、ダム工事、農地開発、捕獲・採集、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 2.3 mm、殻径 3.8 mm 程度のムシオイガイ。殻口は肥厚せず、二重唇を形成しない。なお、県南八代市、芦北町、球磨村、山江村、五木村の石灰岩ガレ場落葉下や天草の自然林内には本種よりやや小型のフトクビムシオイガイ (仮称) が生息している。



撮影：西野宏

シリプトゴマガイ

Arinia japonica Pilsbry & Hirase, 1903

ゴマガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 県内局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内や石灰岩地の落葉下

生息状況 県北玉東町、県央熊本市、益城町、御船町、宇城市、甲佐町、美里町、大津町、阿蘇市の自然林内や里山林内、また、県南の八代市、球磨村、山江村、五木村の石灰岩地帯落葉下に見られる。県南の石灰岩地帯ではゴマオカタニシやクチマガリスナガイと共に発見される。熊本市周辺では里地林内で群生していることがある。自然林内では一般に個体数は少ない。模式産地は長崎県五島。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、ダム工事、ゴルフ・スキー場開発、農地開発、捕獲・採集、踏み付け、人等の接近・利用、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 1.2 mm 程の極小な貝。体層よりも次体層の方が大きい独特な形をしたゴマガイ類である。



撮影：西野宏

ヘソカドガイ

Paludinella japonica (Pilsbry, 1901)

カワザンショウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 外海に面した岩地海岸線の小石や岩の上、低木の根元や落葉下、流木や廃棄された木造船など

生息状況 天草市牛深町および片島・桑島・大島、天草町、苓北町など、東シナ海に面した岩地海岸線に見られる。個体数は比較的多いが、外海岩地海岸線の限られた場所にしか生息していない。模式産地は高知県幡多郡大月町柏島。

生存への脅威 土地造成、道路工事、海辺の改変等、埋め立て、自然災害、土砂流入、海水域の変化

特記事項 殻高 6mm 程度で、ウスイロオカチグサと同様に殻は円すい形で蓋を持つ。海岸線の堤防工事等で生息地を追われている。



撮影：西野宏

ミジンマイマイ

Vallonia costata (Müller, 1774)

ミジンマイマイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 砂地海岸線の草むら、海岸線の雑木林や海浜性植物の落葉下や庭園内など

生息状況 県北玉名市、長洲町、県央宇土市住吉の砂地草むらや雑木林落葉下でスナガイなどと共に見られる。その後、宇土市住吉地区では宅地化により絶滅した。また、海岸線の神社境内などの砂地落葉下からも発見されるが、海岸線の宅地化や埋め立て等により絶滅が危惧される。

生存への脅威 土地造成、道路工事、農地開発、海辺の改変等、埋め立て、踏み付け、自然災害、土砂流入

特記事項 殻径 2 mm 程度の微小な貝で、殻口が反曲して肥大する。



撮影：西野宏

ピルスブリギセル

Megalophaedusa (Tyrannophaedusoides) pilsbryana (Ancey, 1904)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、模式産地、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内の朽木や落葉下、高木樹幹上や根本付近の間隙、石灰岩露頭の落葉下など

生息状況 県北菊池市、南関町、荒尾市、阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、南小国町、県央熊本市、県南八代市、球磨村、天草など、県内の自然林内で見られる。しかし、個体数は少ない。福岡県と大分県の県境付近にも生息が確認されており、九州の中・北部に分布する希少種である。模式産地は天草市福連木。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 14 mm 程度で、殻が淡黄褐色の小型のキセルガイ。アワジギセルやアラナミギセルに外観が似ているが、外唇背部に隆起部があり、腔襞の形態が異なるので区別できる。



撮影：西野宏

シマケルギセル

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Megalophaedusa (Pinguiphaedusa) schmackeri (Sykes, 1895) キセルガイ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内の朽木や落葉下、石灰岩露頭ガレ場の落葉下など

生息状況 県南八代市から五木村にかけて分布する。山麓の小川沿いの朽木などに多数見られることがあるが、一般に個体数は少ない。国内では、四国全域と九州中部に点在する襲速紀要素型分布を示す。模式産地は徳島県剣山。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 27 mm、殻径 6 mm 程度で腹太い紡錘形の中型キセルガイ。殻は淡黄褐色で光沢はなく、弓形の月状襞を持つのが特徴。



撮影：西野宏

カタギセル

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Stereophaedusa (Mesophaedusa) interlamellaris (Matten, 1876) キセルガイ科

選定理由 全国局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内の朽木や倒木、落葉下

生息状況 県北菊池市、阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、県南八代市、球磨村、五木村など、県内の自然林内に広く見られる。しかし、個体数は少ない。模式産地は九州。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 27.5 mm、殻径 5.7 mm 程度の中型のキセルガイ。殻口は斜卵形で、若い個体では殻は黄褐色。



撮影：西野宏

アメイロギセル

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Stereophaedusa (Mesophaedusa) viridiflava (Boettger, 1877) キセルガイ科

選定理由 近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 山岳地帯自然林内の落葉下や朽木・倒木下、石灰岩露頭の落葉下、湿気のある自然林内落葉下やガレ場など

生息状況 県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、県央熊本市雁回山、宇土市三角岳、山都町、県南八代市、五木村、山江村などの山岳地帯、天草市権現山の自然林内にある朽木上や落葉下、苔むした高木樹幹上に見られる。個体数は少ない。時には朽木やガレ場落葉下に多数発見されることがあるが、採集や踏み付けによる環境破壊で激減することがある。大型のキセルガイなので、目につきやすい。模式産地は九州。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、踏み付け、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 35 mm 程の熊本県最大級キセルガイ。殻口は洋梨形で、若い個体では殻は栗色 (紫褐色)、縫合の下が淡黄色。以前はナガシマギセルやクロギセルと呼ばれていた。



撮影：西野宏

オキモドキセル

Stereophaedusa okimodoki (Minato & Tada, 1990)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少、その他（もともと希少）

生息環境 自然林内の落葉下や朽木・倒木下、苔むした高木樹幹上や石灰岩露頭の落葉下など

生息状況 県南八代市から球磨村、山江村、五木村にかけて見られる。本種に酷似したオキギセルと共棲している。個体数は少ない。大分県、宮崎県、鹿児島県の自然林内に分布。模式産地は宮崎県日南市伊比井川内。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 27 mm、殻径 7 mm 程度の中型のキセルガイ。オキギセルに似ているが、腔壁の数が少なく（主壁の下に腔壁 2~3 本）、下軸板は唇縁に達しない。



撮影：西野宏

トサギセル

Stereophaedusa (Pliciphaedusa) tosana (Pilsbry, 1901)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少、その他（もともと希少）

生息環境 自然林内の朽木・倒木下や落葉下、高木樹幹上や根本付近の間隙、石灰岩露頭の落葉下など

生息状況 県北南小国町、阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、県南八代市、球磨村、山江村、五木村の自然林内で見られる。南小国町では放棄されたシイタケ原木に多数見られた。県南の自然林内では朽木・倒木や落葉下から発見されるが、個体数は少ない。国内でシマケルギセルやアワジギセルと同様に、四国と九州中部（大分・宮崎・熊本）に生息する襲速紀要素型分布を示す。模式産地は高知県中村市後川。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 10 mm 程度の小型のキセルガイ類。殻は淡褐色で光沢がある。

ナガオカモノアラガイ

Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

オカモノアラガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 川や湖の枯れ草、ヨシやマコモ、廃船上

生息状況 県北玉名市菊池川水系、県央熊本市江津湖や近隣の加勢川水系で見られる。個体数は多くない。今後の河川改修による環境変化で、絶滅の可能性が危惧される。模式産地は茨城県土浦市。

生存への脅威 土地造成、道路工事、農地開発、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、ヨシ原の減少、自然災害、土砂流入

特記事項 殻高 13.2 mm、殻径 7.0 mm 程度のオカモノアラガイ。橋の欄干や川沿いの土手などでは、本種より小型のヒメオカモノアラガイが見られる。



撮影：西野宏

コベソマイマイ

Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala
(Martens, 1865)

ナンバンマイマイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 自然林内の朽木・倒木上、高木樹幹上や根もと付近の間隙や落葉下、材木集積場など

生息状況 熊本県では平野部里山から山間部や盆地林内まで広く分布する。しかし、大型で目に付きやすいツクシマイマイに比べて個体数が減少傾向にある。模式産地は日本。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、ダム工事、空港建設、ゴルフ・スキー場開発、農地開発、岩石採掘、廃棄物投棄、踏み付け、動物食害、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 24~35 mm、殻径 40~50mm 程度、殻全体はツクシマイマイよりも円すい形。殻周縁に赤褐色の色帯がある。ツクシマイマイは臍孔が開くのに対して、本種は閉じている。平野部から山間部林内まで広く分布していることから、環境評価の指標動物となり得る。

シメクチマイマイ

Satsuma (Satsuma) ferruginea (Pilsbry, 1900) ナンバンマイマイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 自然林内

生息状況 県北玉東町、菊池市、南小国町、大津町、阿蘇町、南阿蘇町、西原村、県央甲佐町、御船町、山都町、県南八代市、芦北町、水俣市、球磨村、山江村、五木村の自然林内の落葉下などで見られる。個体数は少ない。模式産地は岡山県。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 8.9 mm、殻径 13.8 mm 程度の螺塔の高いマイマイ類。殻口底面臍孔側に厚みがある。

ツシマナガキビ

Trochochlamys longissima (Pilsbry & Hirase, 1909) シタラ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然度の高い林の林床や石灰岩露頭の落葉下など

生息状況 県央美里町、県南氷川町、八代市、五木村、球磨村、芦北町の林内から見つかる。熊本県では当初、主に石灰岩露頭の落葉下から発見された。個体数は少ない。模式産地は長崎県対馬市上県町佐須奈。



撮影：西野宏

生存への脅威 森林伐採、土地造成、ダム工事、捕獲・採集、踏み付け、自然災害

特記事項 殻高 4 mm、殻径 2 mm 程度、殻は平滑で光沢のある円すい形の微小なベッコウマイマイ。

タカハシベッコウ

Nipponochlamys takahashii Kuroda & Habe, 1969 シタラ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧I類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 県北菊池市、阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、
県央宇土市、県南八代市、山江村、五木村の自然林内で見られる。
個体数は少ない。模式産地は福岡県糟屋郡篠栗町若杉山。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害

特記事項 殻高 3.8 mm、殻径 8.8 mm 程度の平巻き小型のベッコウマイマイ。



撮影：西野宏

テラマチベッコウ

Bekkochlamys teramachii Kuroda & Minato, 1976 ベッコウマイマイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内の湿気のある落葉下や朽木、湿った落葉が被ったガレ場、
石灰洞入り口付近

生息状況 県北菊池市、県央宇土市、県南八代市、山江村、五木村の自然林内
で見られる。個体数は少ない。模式産地は鹿児島市原良団地。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、自然災害

特記事項 殻高 8.5 mm、殻径 17 mm 程度の平巻き中型のベッコウマイマイ。軟体が殻から常に出た状態であり、乾燥に弱い。



撮影：西野宏

キュウシュウシロマイマイ

Trishoplita eumenes eumenes (Westerlund, 1883) オナジマイマイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少、その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内、特に石灰岩地の落葉下

生息状況 県北玉東町、県央美里町、県南八代市の林内に見られる。個体数は
少ない。模式産地は福岡県門司。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、土地造成、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、
踏み付け、自然災害、自然遷移

特記事項 殻径 12mm 程度でダコスタマイマイやヒゼンオトメマイマイに似るが、殻はより円すい形で、白色である。
地域によって、殻形状の個体変異が多く観察される。



撮影：西野宏

ミズゴマツボ

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

ミズゴマツボ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 近年減少

生息環境 流れの少ないよどんだ海岸沿岸部に近い水田地帯で、きめの細かいシルト質の泥底

生息状況 1975年までの調査では県央熊本市西区松尾の汽水域に多く見られた。近年、熊本県宇城市で多くの生息地が確認され、さらに海岸沿岸から20kmほど離れた上益城郡御船町でも確認された。熊本県ではヒメマルマメタニシと同様に、無農薬や減農薬水田周辺に多い。1980年以降に県内に広まったスクミリングガイと競合することによって、さらに減少した。模式産地は長崎県佐世保市。



撮影：西野宏

生存への脅威 道路工事、農地開発、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、農薬使用、外来種の侵入、土砂流入、湿地の乾燥化

特記事項 殻高5mm程度の小型の淡水貝。殻高の半分以上を体層が占める。殻の表面は滑らかであるが、体層には破線状の彫刻を有する。殻口は円形で、蓋も殻口同様の円形をしている。海岸沿岸域に生息する個体は殻全体がほぼ完全であるが、内陸の水路などに生息する個体は殻頂部が浸食によって失われる。

ヒラマキミズマイマイ

Gyraulus chinensis Dunker, 1854

ヒラマキガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 近年減少

生息環境 河川、池沼、水田やその水路などの水草や礫上

生息状況 県北菊池川水系、県央熊本市江津湖、宇土市、宇城市、県南五木村、天草市新和町で見られる。個体数は少ない。熊本県ではヒメマルマメタニシやミズゴマツボと同様に、無農薬や減農薬水田周辺に多い。模式産地は日本。



撮影：西野宏

生存への脅威 道路工事、農地開発、池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、農薬使用、土砂流入、湿地の乾燥化

特記事項 殻径5mm程度の平巻きの淡水貝。殻は褐色で半透明。

情報不足 (DD)

タネガシマムシオイガイ

Chamalycaeus satsumanus tanegashimae (Pilsbry, 1902)

ムシオイガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 照葉樹林落葉下

生息状況 天草市で記録がある。模式産地は種子島。

生存への脅威 不明

特記事項 殻径4mm程度の小型のムシオイガイ。

ケシガイ

Carychium pessimum Pilsbry, 1902

ケシガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 八代市、五木村、山江村、球磨村の自然林内落葉下で発見される。個体数は多くない。模式産地は種子島。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 1.5 mm 程度の極小の貝。本種によく似たニホンケシガイも県南の同様の地域で発見される。



撮影：西野宏

ナタネガイモドキ

Pyramidula (Pyramidulops) conica Pilsbry & Hirase, 1902

ナタネガイモドキ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 石灰岩上の窪地

生息状況 五木村の石灰岩上および山都町 (死殻) での記録がある。模式産地は徳島県阿南市水井。

生存への脅威 不明

特記事項 殻径 2 mm 程度の微小な貝。

ノミガイ

Tornatellides boeningi (Schmacker & Boettger, 1891)

ノミガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 海岸草地

生息状況 天草市の海岸で記録がある。模式産地は台湾。

生存への脅威 土地造成、道路工事、海辺の改変等、埋め立て、踏み付け、自然災害、自然遷移

特記事項 殻高 3 mm 程度の円錐形の貝で、殻口内に板状突起がある。

キバサナギガイ

Vertigo hirasei Pilsbry, 1901

キバサナギガイ科

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 八代市や球磨村の自然林内落葉下で発見される。個体数は極めて少ない。模式産地は九州筑後。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 1.5 mm 程度の微小な貝。殻口内に歯がある。



撮影：西野宏

アラハダノミギセル

Zaptyx asperata (Pilsbry, 1905)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内

生息状況 天草市、八代市泉村、水上村で記録がある。模式産地は鹿児島県甬島。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 10 mm 程度の小型のキセルガイ。

ニセスギモトギセル (モリサキギセル近似種)

Megalophaedusa (Aulacophaedusa) sp. cf. morisakii
(Kuroda & Abe, 1980)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内

生息状況 八代市、五木村、山江村、球磨村の自然林内で発見される。個体数は極めて少ない。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 8 mm 程度の小型のキセルガイ。RDB2009 でホソヒメギセルとしていた種。

シンチュウギセル

Megalophaedusa aenea (Pilsbry, 1903)

キセルガイ科

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内

生息状況 八代市泉村と相良村で記録がある。個体数は少ない。模式産地は高知県高岡郡葉山村。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻高 10 mm 程度の小型のキセルガイ。

オオコウラナメクジ

Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe, 1955

オオコウラナメクジ科

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 山岳地帯落葉林内

生息状況 八代市や球磨村の山岳地帯落葉林内で発見される。個体数は少ない。模式産地は鳥取市久松山。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、捕獲・採集、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 体長 50 mm 程度のコウラナメクジ。頭の背面に盛り上がった部分 (楯板) があり、その体内には殻の名残 (一枚貝のような形状で白色の殻) が入っている。

オオウエキビ

Trochochlamys fraterna (Pilsbry, 1900)

シタラ科

熊本県カテゴリー

情報不足 (DD)

環境省カテゴリー

情報不足 (DD)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 菊池市、八代市、五木村、山江村、球磨村の自然林内で発見される。個体数は極めて少ない。模式産地は兵庫県たつの市新宮町。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻径 2 mm 程度の小型円錐形の貝。

ヒゼンキビ

Parakaliella hizenensis (Pilsbry, 1902)

シタラ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 八代市、五木村、山江村、球磨村の石灰岩路頭や自然林内落葉下で発見される。個体数は少ない。模式産地は長崎県平戸島。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻径 2 mm 程度の小型円錐形の貝。



撮影：西野宏

カサネシタラガイ

Sitalina insignis (Pilsbry & Hirase, 1904)

シタラ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 菊池市や八代市の自然林内落葉下で発見される。個体数は極めて少ない。模式産地は高知県高岡郡津野村不入山。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻径 2 mm 程度の小型円錐形の貝。殻は横から見ると稲妻状で、体層、次体層共に周縁に鋭い竜骨が突出している。



撮影：西野宏

カドヒメベッコウ

Luchuconulus acuta (Pilsbry & Hirase, 1905)

シタラ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 菊池市や県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内で発見される。個体数は少ない。模式産地は鹿児島県いちき串木野市。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻径 3 mm 程度の貝。



撮影：西野宏

オオクラヒメベッコウ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Yamatochlamys lampra (Pilsbry & Hirase, 1904) シタラ科

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 天草市で確認されているが、個体数は極めて少ない。模式産地は屋久島。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻径 4 mm 程度の貝。



撮影：西野宏

ヒラベッコウガイ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

Bekkochlamys micrograpta (Pilsbry, 1900) ベッコウマイマイ科

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 自然林内落葉下

生息状況 菊池市や県北阿蘇市と大津町にまたがる阿蘇外輪山にある原生林内、八代市や球磨村の自然林内。個体数は少ない。模式産地は日本。

生存への脅威 森林伐採、人工造林、道路工事、ダム工事、踏み付け、自然災害、土砂流入、自然遷移

特記事項 殻径 9 mm 程度の平巻き of 貝。



撮影：西野宏

カンダマイマイ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

Aegista (Coelorus) kandai Azuma, 1970 オナジマイマイ科

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 照葉樹林内の落葉下。

生息状況 水俣市で記録がある。模式産地は大分県佐伯市浦江丸市尾。

生存への脅威 不明

特記事項 殻径 10 mm 程度の貝で、殻口上部が凹んでいる。

オオタニシ

Cipangopaludina japonica (Martens, 1860)

タニシ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 用水路やため池

生息状況 熊本市や天草市のため池に生息。近年は見かけなくなった。

生存への脅威 ダム工事、ゴルフ・スキー場開発、農地開発、池沼の開発、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、水質汚濁、動物食害、自然災害、土砂流入、自然遷移、湿地の乾燥化

特記事項 殻高 70 mm、殻径 45 mm 程度の淡水産大型のタニシ。



撮影：西野宏

ヒメヒラマキミズマイマイ

Gyraulus chinesis (Mori, 1938)

ヒラマキガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由 その他 (もともと希少)

生息環境 水田やその水路など

生息状況 熊本県上益城郡山都町塩出迫における採集記録があるのみで、詳しいことは分からない。

生存への脅威 ダム工事、ゴルフ・スキー場開発、農地開発、池沼の開発、河川改修、水湿地の開発、埋め立て、水質汚濁、動物食害、自然災害、土砂流入、自然遷移、湿地の乾燥化

特記事項 殻径 3 mm 程度の板状平巻きの淡水産貝類。

(3) 文献

1. 東正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版). 保育社.
2. 波部忠重・奥谷喬司・西脇三郎 (1994) 軟体動物学概説 (上巻). サイエンティスト社.
3. 濱田善利 (1967) 鍾乳洞内のキセルガイーイシカワギセルとカザアナギセルー. *ちりぼたん*, 4(8) : 133-134.
4. 濱田善利 (1970) 熊本県産陸産貝類目録. 熊本洞穴研究会貝類目録出版部.
5. 濱田善利 (1977a) 熊本の陸産貝 (熊本県産陸産貝類仮目録). 熊本の自然 77-81. 日本生物教育会第 32 回全国大会記念誌.
6. 濱田善利 (1977b) 熊本県産陸産貝類仮目録. 九州の貝, 7, 8 : 36-45.
7. 濱田善利 (1977c) 熊本県陸産貝類仮目録 補遺. 九州の貝, 9 : 22-23.
8. 濱田善利 (1979) 阿蘇のタイワンカワニナ. *ちりぼたん*, 10(8) : 220.
9. 濱田善利 (1984) ナミギセルは熊本県にも産する. 九州の貝, 23 : 23-24.
10. 濱田善利 (1985) 天草のパンダナマイマイ. 九州の貝, 26 : 1-5.
11. 濱田善利 (1986) コハクガイの食害. 九州の貝, 28 : 39.
12. 濱田善利・松本達也 (1985) 熊本県内のジャンボタニシ. 九州の貝, 24 : 5-12.
13. 肥後俊一・後藤芳央 (1993) 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. (株)エル貝類出版局.
14. 平野尚浩・川内野善治 (2015) 長崎県北部から記録されたキュウシュウシロマイマイ. *ちりぼたん*, 45(3) : 143-146.
15. Itoh, T., Someya, A. and Kakino, W. (2019) Host Species for Glochidia of the Freshwater Unionid Mussel *Lanceolaria grayana* in Tanks. *VENUS*, 78(1-2) : 57-60.
16. 入江照雄・西野宏 (1978) 山江村・坂本村の陸産貝類, 九州自動車道八代～えびの間自然環境調査 (その 2) 報告書. 日本道路公団福岡建設局人吉調査事務所, (社) 道路緑化保全協会, pp 172-209, pp 210-212.
17. 入江照雄・西野宏 (1980) 石灰洞窟に産するキセルガイについて. *土龍 MOGURA*, 9 : 1-10.
18. Kameda, U. and Fukuda, H. (2015) Redefinition of *Satsuma ferruginea* (Pilsbry, 1900) (Camaenidae), with Description of a New Cryptic Species Endemic to the Coasts and Islands of the Central Seto Inland Sea, Western Japan. *VENUS*, 73(1-2) : 15-40.
19. Kondo, T. and Hattori, A. (2019) A New Species of the Genus *Lanceolaria* (Bivalvia: Unionidae) from Japan. *VENUS*, 78(1-2) : 27-31.
20. 神田正人 (1992) 大分県産陸産貝類誌.
21. 河本卓介・田邊澄生 (1956) 山口県産貝類目録. 山口県立山口博物館.
22. 近藤高貴 (2008) 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第 3 号.
23. 熊本生物研究所 (1986) くまもとの自然シリーズ 1, 江津湖の自然. pp. 72-74.
24. 熊本生物研究所 (1987) くまもとの自然シリーズ 2, 金峰山の自然. pp. 113-115.
25. 熊本生物研究所 (1991) くまもとの自然シリーズ 3, 阿蘇・菊池溪谷の自然. pp. 132-135.
26. 熊本生物研究所 (1993) くまもとの自然シリーズ 4, 天草の自然. pp. 135-142, 148.
27. 熊本生物研究所 (1997) くまもとの自然シリーズ 5, 五木・五家荘の自然. pp. 159-162.
28. 黒田徳米・湊宏 (1975) 石灰岩洞窟産キセルガイの 1 新属 2 新種. *VENUS*, 34(1-2) : 1-10.
29. 増田修・内山りゅう (2010a) 日本産淡水貝類図鑑, ①琵琶湖・淀川産の淡水貝類. ピーシリーズ.
30. 増田修・内山りゅう (2010b) 日本産淡水貝類図鑑, ②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシリーズ.
31. 湊宏 (1976) 熊本県五家荘産ケショウギセル (新種・新称). *VENUS*, 35(4) : 159-162.
32. 湊宏 (1980a) 日本新記録のタイワンミジンヤマタニシ属の新種. *VENUS*, 39(1) : 15-16.
33. 湊宏 (1980b) 日本産陸棲貝類の生殖器の研究-XX. キセルガイ科 (7) : マルクチコギセル. *VENUS*, 42(4) : 331-343.

34. 湊宏 (1982a) イシカワギセルの生殖器 2 型とその地理的分布. *ちりぼたん*, 13(3) : 60-63.
35. 湊宏 (1982b) 襲速紀要素型分布をするキセルガイ科貝類. *南紀生物*, 24(1) : 8-11.
36. 湊宏 (1983a) コベソマイマイとその近縁種について. *南紀生物*, 25(1) : 28-33.
37. 湊宏 (1983b) 日本産ピロウドマイマイ属の 2 新種. *VENUS*, 42(1) : 44-48.
38. 湊宏 (1988) 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会.
39. 湊宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分布に関する研究. 日本貝類学会.
40. 湊宏 (2000a) 日本陸産貝類総目録 (1988) 以後の追加種一覧. *九州の貝*, 54 : 9-16.
41. 湊宏 (2000b) 日本に侵入した有肺類. *九州の貝*, 54 : 17-27.
42. Hiroshi Minato (2005) Two New Species of *ChamaLycaeus* (Gastropoda: Alycaeidae) from Miyazaki Prefecture, Southeastern Kyushu, Japan. *VENUS*, 64(1-2) : 39-44.
43. 湊宏 (2009) ノミガイの鹿児島県佐多岬からの記録. *ちりぼたん*, 39(2) : 124-125.
44. 湊宏 (2014) 陸産貝類研究備忘録 (12) イシカワギセルとカザアナギセル. *かいなかま*, 48(1) : 1-12.
45. 湊宏・多田昭 (1979) 九州の石灰岩地産キセルガイ科の 2 新種. *VENUS*, 38(3) : 172-179.
46. 湊宏・多田昭 (1990) 九州から採集されたオキモドキギセル(新種). *VENUS*, 49(1) : 31-37.
47. 湊宏・中優・中野環 (2017) ホラアナミジンナが対馬島南部 (長崎県) に生息する. *ちりぼたん*, 47(1-4) : 80-82.
48. 湊宏・西邦雄 (2015) 熊本県矢山岳石灰岩地のイシカワギセル. *ちりぼたん*, 45(3) : 138-142.
49. 湊宏・波部忠重 (1983) 日本産キセルガイ科貝類の 1 新属 2 新種. *VENUS*, 41(4) : 240-246.
50. 湊宏・真鍋賢 (2016) 移入種・ヌノメカワニナ (トウガタカワニナ科) の白浜 “大谷の浜” への侵入. *南紀生物*, 58(2) : 203-205.
51. 三浦一輝・藤岡正博 (2015) 埼玉県の農業水路における外来種トンガリササノハガイの分布と生息環境. *VENUS*, 73(3-4) : 137-150.
52. Motochin, R., Wang, M., and Ueshima R. (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). *Zool. J. Linn. Soc.*, 181(4) : 795-845.
53. 西邦雄 (2017) イトマキミジンヤマタニシの新産地 (熊本県). *九州の貝*, 89 : 20. 九州貝類談話会.
54. 西邦雄・潮崎正浩 (2013) 熊本県人吉市でオオスミピロウドマイマイ. *九州の貝*, 80 : 21-22. 九州貝類談話会.
55. 西邦雄・潮崎正浩 (2013) ケショウキセルの新産地 (熊本県). *九州の貝*, 81 : 22-23. 九州貝類談話会.
56. 西邦雄・潮崎正浩 (2014a) (訂正) 前号のスナガイは熊本県初記録のチョウセンスナガイ. *九州の貝*, 82 : 33. 九州貝類談話会.
57. 西邦雄・潮崎正浩 (2014b) ナンピギセルの新産地 (熊本県). *九州の貝*, 82 : 38. 九州貝類談話会.
58. 西邦雄・潮崎正浩 (2015) アラハダノミギセルの新産地 (2) (熊本県). *九州の貝*, 85 : 20. 九州貝類談話会.
59. 西邦雄・潮崎正浩 (2017a) ツシマナガキビの新産地 (熊本県). *九州の貝*, 89 : 21. 九州貝類談話会.
60. 西邦雄・潮崎正浩 (2017b) キュウシュウシロマイマイの新産地 (熊本県). *九州の貝*, 88 : 12-13. 九州貝類談話会.
61. 西邦雄・西浩孝 (2018) 宮崎県のカタツムリ. 黒潮文庫.
62. 西野宏 (1977) ワナバノ第一洞および洞周辺の陸産貝類. *土龍 MOGURA*, 7 : 15-19.
63. 西野宏 (1984) 大金峰洞 (泉村・五家荘) 周辺の陸産貝類. *土龍 MOGURA*, 11 : 56-63.
64. 西野宏 (1985) 軟体動物、五木村学術調査(自然編). 五木村総合学術調査団, pp. 635-647.

65. 西野宏 (1993) 泉村の陸産貝目録. 泉村の自然(資料編). 五家荘の会, pp.193-199.
66. 西野宏 (1998) 新熊本市史, 通史編, 自然, 原始・古代, 1 : 171-307.
67. 西野宏 (1999) 熊本市史関係資料集 第3集. 熊本市の植物・動物目録, pp.109-114.
68. 西野宏 (2003) 宇土市の陸産・淡水産貝目録. 新宇土市史基礎資料第10集. 宇土市教育委員会, pp.201-206.
69. 西野宏・濱田善利 (1982) 菊地溪谷の軟体動物. 菊地溪谷の動物, 熊本洞穴研究会, pp.169-178.
70. 西野宏・松本達也 (2007) ソメワケダワラガイ熊本市に侵入. *ちりぼたん*, 38(1-2) : 21-23.
71. 岡本正豊 (1966) イシカワギセル産地の近況. *ちりぼたん*, 4(2) : 33-34.
72. 奥谷喬司・波部忠重 (1975) 学研中高生図鑑「貝 I, II」. 学習研究社 .
73. Páll-Gergely, B. and Asami, T. (2017) A New Species of *Metalycaeus* Hitherto Undistinguished from *M. vinctus* (Pilsbry, 1902) (Gastropoda: Cyclophoroidea: Alycaeidae). *VENUS*, 75(1-4) : 1-16.
74. Páll-Gergely, B., Hunyadi, A., Sándor, D., Naggs, F, and Asami, T. (2017) Revision of the Alycaeidae of China, Laos and Vietnam (Gastropoda: Cyclophoroidea) I: The genera *Dicharax* and *Metalycaeus*. *Zootaxa* 4331 (1) : 001-124.
75. 潮崎正浩 (2013a) イトマキミジンヤマタニシの新産地 (熊本県). 九州の貝, 80 : 17. 九州貝類談話会.
76. 潮崎正浩 (2013b) ピルスブリギセルの新産地 2 ヲ所 (熊本県). 九州の貝, 81 : 28-29. 九州貝類談話会.
77. 潮崎正浩・西邦雄・西浩孝 (2013) マルクチコギセルの新産地 (熊本県・宮崎県). 九州の貝, 80 : 18-20. 九州貝類談話会.
78. 潮崎正浩・西邦雄 (2015a) ピルスブリギセルの 2 新産地 (熊本県). 九州の貝, 84 : 18-19. 九州貝類談話会.
79. 潮崎正浩・西邦雄 (2015b) シンチュウギセルの新産地 (熊本県). 九州の貝, 85 : 21. 九州貝類談話会.
80. 潮崎正浩・西邦雄 (2015c) カワモトギセルの 3 新産地 (熊本県). 九州の貝, 85 : 22-25. 九州貝類談話会.
81. 潮崎正浩・西邦雄 (2015d) (訂正) 前号のノミガイは熊本県新産地. 九州の貝, 85 : 26. 九州貝類談話会.
82. 高橋五郎・岡本正豊 (1969) 福岡県産貝類目録.
83. 武田晋一・西浩孝 (2015) カタツムリハンドブック. 文一総合出版.
84. 上田実・石田未基・松田征也 (2015) 滋賀県内で採集されたウスイロオカチグサ *Solenomphala debilis* (Gould). *ちりぼたん*, 45(3) : 135-137.
85. 矢野重文 (2015) 九州本土及びその周辺 (トカラ列島以北) に生息するムシオイガイ類. 九州の貝, 84 : 3-13. 九州貝類談話会.
86. 矢野重文・増田修 (1999) 西日本におけるウスイロオカチグサガイの記録. *ちりぼたん*, 30(1) : 9-12.
87. Yano, S., Matsuda, H., Nishi, K., Kawase, M., and Hayase, Y. (2016) Two New Species of *AwaIycaeus* (Caenogastropoda: Cyclophoridae: Alycaeinae) from Kochi and Kumamoto Prefecture, Japan. *VENUS*, 74(3-4) : 51-59.